

もよう・色を見る

ハナカジカ



アイヌ語名は（ ）内に

パーマーク — サケ科の子どものマーク



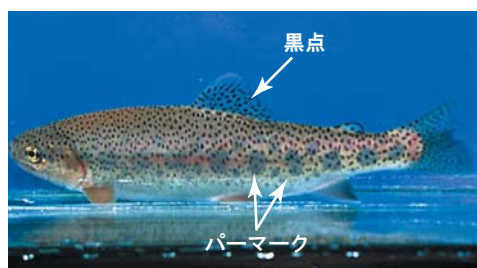
ヤマメ (ポンイチャニウ、イチャンコツ)

ヤマメというと、横腹に楕円形のマークがズラツと並んでいるイメージを持っている人もいます。

これはパーマークと言って、サケの仲間の魚が子ども時代につけている印です。サケ(シロザケ)の子どもにもあります。

ただヤマメ(サクラマスで海に降りないもの)はおとなになっても消えないので、ヤマメのマークというイメージが強いかも知れません。

ニジマスも川に残るので、釣った魚をヤマメだと思ってもニジマスである場合があります。区別点は背ビレや尾ビレの黒点で、これが多いものはニジマスです。



ニジマス (外来魚)。パーマークがまだ明確



オショロコマ (オソルコマ)。まだパーマークが見られる



アメマス (チポルケソ、トクシシ) パーマークは不明瞭

婚姻色 — 命の誕生につながる色

おとなになり、季節がきていよいよ卵を産む季節になると、多くの魚は体の色が変わります。オスメスともに変わる魚もいれば、オスだけ変わる魚もあります。

春先ウグイはオスメスともに赤い婚姻色に体を染め、別名アカハラと呼ばれます。アイヌ語名のスプンも「赤腹」の意味だといいます。

またサケの場合オスは赤っぽく、メスには黒いラインが出ますが、メスの取り合いに負けたオスには黒いラインが出たりします。



ウグイ (スプン、オトウヤッケ)
産卵期は4～7月



イトウ (チライ)
4～5月産卵。オスのみ朱色に



イバラトミヨ (トイロコム)
4～6月産卵。オスのみ黒色に

参考文献

「日本産 魚類検索—全種の同定—」 中坊徹次編 東海大学出版会 1993
「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」 川那部浩哉・水野信彦 編・監修 山と溪谷社 1989
「北海道の淡水魚」 稗田一俊 北海道新聞社 1984

「検索入門 川と湖の魚①」 川那部浩哉・水野信彦 保育社 1989
「検索入門 川と湖の魚②」 川那部浩哉・水野信彦 保育社 1990
「図説 魚と貝の大辞典」 望月賢二 監修 魚類文化研究会 編 柏書房 1997